

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2025年2月
第60号
(年4回発行)

春号

発行部数3千部



紙上問答「灌仏会～お釈迦さまの生涯」

シリーズ浄土宗／浄土三部経

実践教室／お香を供える

春彼岸会◆山門大施餓鬼会のご案内

四月八日は灌仏会です。花まつりとも呼ばれ三仏忌（降誕会・成道会・涅槃会）の一つでお釈迦さまの誕生を祝う仏教行事です。仏教の開祖であるお釈迦さまはどのような人物だったのでしょうか。



花御堂

お釈迦さま

誕生の逸話



お釈迦さまの母である王妃摩耶夫人は、お産のために隣国の実家の城に向かっておりました。その旅の途中、ルンビニーの花園に立ち寄ると急に産気づき、お釈迦さまが誕生したのです。お釈迦さまは幼名をシッタールタといいお生まれになってすぐに七歩あるき、その七歩目に右手を天に上げ天上を指差し、左手は足もとの大地を指差し声高らかに「天上天下唯我独尊」と宣言されました。空には龍が現れ天空より甘い雨を降らせて誕生を祝福しました。

灌仏会（花まつり）

花まつりでは、お釈迦さまの誕生の逸話にのっとり、誕生の地であるルンビニーの花園を表した花御堂に灌仏桶を置き、中央に誕生仏を安置し祀られ誕生仏に柄杓で甘茶をかけて誕生を祝います。

お釈迦さまの生涯

お釈迦さまは、ゴータマ・シッタールタといい、インドのシャキーヤ族の王子として生まれた実在の歴史人物です。釈迦とは、このシャキーヤという部族名に由来するものです。

ルンビニーの花園で生まれたお釈迦さまは、その後結婚し子どもをもうけましたが29歳で出家します。出家した後、さまざまな師を求めて遍歴し教えを請い、さらに苦行を積みますが自分の求めているものはなかなか手に入らない。そこで苦行が無益であることに気付いたお釈迦さまは苦行をやめブツガヤの菩提樹の下で禪定に入り真理を悟って仏陀となりました。(仏



陀とは「目覚めた人」という意味)お

釈迦さまが35歳の時でした。そして、このとき悟った真理が縁起の理論であったと伝えられています。その後、お釈迦さまはサールナートの鹿野苑を訪れ、初転法輪と言われる初めての説法を5人の旧友に向かって行いました。

説法の内容は、四諦と八正道に関するものでした。これを機にお釈迦さまのもとには多くの人々が集まるようになり、やがて1000人以上の弟子を抱える大教団となりました。その後も、伝道の旅を続け、クシナガラので80歳の時に亡くなりました。

お釈迦さまは、多くの人々を救うために悟りをひらきブツダ(仏陀)となり教えを広めました。それが仏教です。お釈迦さまが亡くなると「私亡きあと、みずからを灯明とし、法を灯明とせよ」と語ったといわれています。

つまり、お釈迦さまは自分を神のよくな権威者とすることを戒め、常にその「教え」をよりどころとしてほしい

と考えたのです。

そして、お釈迦さまが教えの中に説かれた「遠い過去に悟りを開き、今も人々に救いの手をさしのべている仏さま」それが浄土宗の本尊である阿弥陀さまなのです。

阿弥陀仏の出自



『無量寿経』によると、阿弥陀仏の出自は次のようなエピソードに基づいています。

大昔のインドに、ある国王がいました。彼は仏さまの説法を聴き感激し、自らも人々の為に尽くしたいと決意して王位を捨てて出家して法蔵比丘と名乗りました。

法蔵比丘は世の中すべての苦しみを救済できる世界を打ち立てたいと願い、限りなく長い徳行の末、四十八の誓願をたてて西方十万億土の彼方に念願の浄土をつくりました。これが、いわゆる極楽浄土です。この安楽の世界で法蔵比丘は阿弥陀仏となりました。

浄土宗のよりどころとする経典

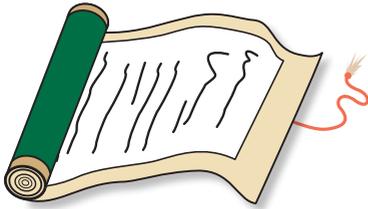
「浄土三部経」

正しく往生浄土を明かす教というは、いわく三経一論これなり。

「三経」とは、一には『無量寿経』、二には『観無量寿経』、三には『阿弥陀経』なり。

「一論」とは、天親の『往生論』（浄土論）これなり。あるいはこの三経を指して浄土三部経と号すなり。

浄土宗の宗祖法然上人は主著である『選択本願念仏集』でこのように書かれています。浄土宗のよりどころとする「浄土三部経」はそれぞれどのような経典なのでしょう。



「無量寿経」は、

「観無量寿経」「阿弥陀経」とともに五世紀の中国で翻訳されました。序・本論・結語の三部四章からなる長編であることから「大経」とも呼ばれています。

内容は、宝蔵菩薩が、すべての人を救済するために仏となることを志し、四十八の誓願をたて長い修行を経て、すべての誓願を成就させ阿弥陀如来となり莊嚴な極楽浄土が建立されるというものです。

「観無量寿経」は

浄土三部経のなかで、「無量寿経」も「阿弥陀経」もインドの原典とチベット語訳があるのに対し、この「観無量寿経」だけは漢訳しか伝わっていません。略して「観経」とも称され、お経の内容が物語風にまとめられています。

王舎城に起きた「王舎城の悲劇」という事件を背景に、王妃韋提希夫人がお釈迦さまに精神的救いを求め、それに応じたお釈迦さまが浄土へ往生するためのさまざまな方法を説くというものです。

「阿弥陀経」は

浄土三部経のうち「大経」とよばれる『無量寿経』に対して『阿弥陀経』は全文二千字弱の短さから「小経」とも呼ばれています。麗しい浄土の様子と阿弥陀仏や、そのものに集う菩薩たちの徳が説かれています。

「阿弥陀経」は、お釈迦さまの弟子の舍利弗（シャリープトラ）に阿弥陀仏とその世界である極楽浄土の莊嚴をつぶさに説かれた経典です。そして、極楽浄土に往生するための実践として、南無阿弥陀仏の名号を称える念仏の教えを示しています。

お線香をお供えする

法要に参列する時には焼香を、お仏壇や墓前で手を合わせるときには線香を上げるなど、私たちの生活の中にある仏事でお香は欠かせないものです。

お香は、古代からインドで用いられた礼法の要具です。
また、人間の体臭を消す目的で発達してきました。



お香の歴史

日本におけるお香の歴史は仏教伝来とともに、仏教儀礼には欠かすことのできないお香の文化も伝わったと言われています。日本のお香についての最古の記述は「日本書紀」にみられます。日本書紀では、595年、淡路島に沈水香木が漂着し、その大きさは人が取り囲むくらい大きなものでした。島の人々が香木とは知らずに薪にまぜて焚いたところ、その高貴な香りに驚き朝廷に献上したことが記されています。

お香の種類

お香には、塗香（すこう）、焼香、

燃香などの用い方があります。塗香は、香木や漢薬など自然の原料をすり合わせて、細かい粉末状に作ったお香のことで一般的なお香とは違い、火を使わないのが特徴です。塗香はパウダー状になっていて、手のひらに擦り込みながら身体に塗り、法要などで僧侶が用います。

焼香は、沈香や五種香（沈香、白檀、甘松、丁子、桂皮などの香料を適宜にブレンドしたもの）を炭火で焚くことをいいます。そして、焼香の香りを長持ちさせるために「燃香」という方法が考えられました。「燃香」とは、長香炉や常香盤（じょうこうばん）に抹香を直線状もしくは渦巻き状に敷きに長時間にわたり供香する事をいいます。

お香をお供えする

浄土宗のよりどころとする經典のひとつ「無量寿経」にある阿弥陀如来の四十八願の中には、お浄土が芳しい香りでいっぱいになるようにという願いがあります。

お香を焚くことで辺りが清浄な香りで満たされ、それにより心身を清々しく安らかな気持ちで仏前に向かうことができるのです。

暮らしの中の 仏教語

「自然」【しぜん】

自然という言葉を聞くだけで「いいもの」のような「いい事」のような気がしていませんか？ 自然の「自」は「おのずから」「みずから」の意味、「然」は「そのとおり」「そうである」の意味。一般に山や川、草、木など人の手加えられていないあらゆるものを指して使われることが多い言葉で自然は本来のままであることを意味します。さて、この「自然」仏教では「じねん」と読み「自然法爾（じねんほうに）」「法爾自然（ほうにじねん）」などの言葉があります。もののありのままの姿が真理にのっとっていることを意味します。また、浄土宗の宗祖である法然上人は「法爾自然」を略して法然と号したのだから…。



春彼岸会

3月17日（月）～3月23日（日）

●春の合同彼岸会法要

日時▶3月20日（水）10：00～

場所▶彩の都 あすま会館 3階

彩の都メモリアルパークでは、上記日程で春の彼岸会合同法要をお勤めします。是非、ご参列くださいますようお願い申し上げます。



●葬祭フェア開催

日時▶3月22日（土）／23日（日）

10：00～

場所▶彩の都 あすま会館

当日は、会場で葬儀についてのご相談やご質問をお受けいたします。お気軽にお越しください。

西願寺

大施餓鬼会法要のご案内

施餓鬼会は、西願寺で営む年に一度の大供養法要です。万障お繰り合わせの上、ご出席ご参詣いただき御仏前にご焼香ください。

日時 令和7年5月25日（日）

13時より余興（落語）

14時より法要

場所 西願寺本堂



よいでしょう。

宗派、また地域の風習やお寺によっても考え方や習慣が異なります。ご自宅の仏壇については、菩提寺のご住職に聞いてみるのが一番よいでしょう。

A 通夜や葬儀の席で、お仏壇の扉が占められていることもありませんが、葬儀などの際にお仏壇を閉めるという考えは仏教的な発想ではなく、元々は神道のしきたりから来たものと考えられます。神道では「死者や葬儀は穢れ」と考え、穢れから遠ざけるという意味で四十九日法要が終わるまで神棚を閉じ白い紙などを貼るそうです。この習慣がいつの間にかお仏壇にも波及したのではないのでしょうか。

Q 家族が亡くなったとき、お仏壇の扉は閉めておくべきでしょうか？



Q & A

参加ご希望の方は、お気軽にお問合せ・お申込みください。

西願寺 TEL. 048-925-1723 FAX. 048-925-1789

掲 示 板



ご住所、ご連絡先、名義人などの変更があった場合はお早めに届け出をお願い致します。

彩の都メモリアルパーク管理事務所 管理費口座引落としのお知らせ

令和7年度分管理費を下記の日程にて口座より引き落としさせていただきます。口座の残高が不足している場合引き落としが完了しませんのでご確認ください。



第1回引落 令和7年3月6日(木)

第2回引落 令和7年4月7日(月)

(第1回で引落が出来なかった方のみ)

※第1回引落ができなかった場合は、4月7日に再度引落の手続きをいたします。

彩の都メモリアルパーク定休日：毎週水曜

彩の都メモリアルパーク 永代供養墓のご案内

彩の都メモリアルパークでは、永代供養墓「華苑」、「光明苑」「草加遊馬樹木葬墓地」のご案内をしております。お墓の跡継ぎのいない方や、これからご自身のお墓に不安を抱えていらっしゃる方などにご好評を頂いております。



永代供養墓「華苑」



「草加遊馬樹木葬墓地」



永代供養墓「光明苑」

ペットのお墓「虹の都」

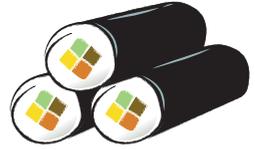
家族の一員として共に過ごしてきた愛するペットのための合同墓



■お便り募集■
編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仕事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

◆イオ株式会社
西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんが」編集部
東京都千代田区麹町二・十・三・一〇二
FAX 03 (32295) 1302 Mail: info@io-conet

■次号予告■
次号は令和七年五月発行予定の「夏号」です。



◆編集後記◆

浄土宗では阿弥陀さまがご本尊なのでお釈迦さまを取り上げることは少ないのですが、春号の今回は、花まつりにちなんでお釈迦さまについて掲載しました。エピソードだけを聞くと実在の人物に思えないですね。

さて今号のさんが60号より春号の発行が諸般の事情により少し早まりまだまだ寒い2月の初めになりました。ところで、2月の和風月名は「如月」ですね。この字は中国の古書に書かれた「二月為如（にがつをじよとなす）」という一節に由来し、「如」は、天地のあらゆるものが春に向かつて動き出すといった意味の言葉で中国では如が2月の別名として使われていてそれが日本でも採用されたのだとか。日本で「如月」を「きさらぎ」と読むのは、諸説ありますが、寒さで着物を更に重ねて着ることの「着更着（きさらぎ）」からきている説が有力で、私を含め重ね着で着ぶくれている2月の街の人々を見て「着更着」わかりやすい！と思いつつ、やはり「如月」と書く方が美しく感じるのには私だけじゃないはず。

発行者

遊馬山一行院 西願寺

〒三四〇〇〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三四〇〇〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんか」編集部